



群馬縣第一期看護婦養成生總代

君のうち紅葉の錦を飾りあへるわ嬉しさ
多くへ居たがるも猶行末のたどたど
走れりかして西へと思ひわゆるわき
今又厚き御諭を承り行きて遠む
山路を越へ但し心地あれば事もむらむ
れ我等は諸共年を引いたゆゑて共道
に向ひゆく深く進み勤め身を盡
たたまゆる所は爲め身を盡
して師の御恩を空しくせじと誓ひ
なき業ながら御國の爲めに身を盡
て御諭に答へまつり併せて今日の謝辞
我聞れあくまでも有けり

明治三十二年四月廿一日

りのこる紅葉の錦を飾りあへるわ嬉しさ
たとへんやうなけれど猶行末のたどたど
しきいかにして、ましと思ひわづられし
に、今又厚き御諭を承り、行くて遠き
山路にこそ得たる心地こそすれ、あわ
れ我等は、諸共に手を引きつれて此道
に向ひ、いよいよ深く進み勤しみおほけ
なき業ながら御國の爲めに身を盡
して師の御恩を空しくせじと誓ひ
て、御諭に答へまつり併せて今日の謝辞
を聞きあぐるになむ有りける

群馬縣第一期看護婦養成生總代

明治三十二年四月二十一日

5 卒業式謝辞 赤十字第1期看護婦養成生

明治32年(1899)4月21日

日本赤十字社群馬県支部看護婦養成所における卒業式謝辞の案文と推定される史料です。

史料は前欠で看護婦養成生総代の名前もなく不明な部分が多いのですが、「日本赤十字社群馬県支部百年史」には、明治30年5月14日に支部看護婦養成所(2年修業)開校とあり、この時点での入学した養成生と思われます。

また、同百年史には同日に入學し、明治31年3月31日の前期卒業式で総代を務めた石原はる氏の答辭が掲載されています。

なお、群馬県支部では、日清戦争が始まった明治27年に「日本赤十字社群馬県支部看護婦養成所第一期速成科」を開設しており、この史料は「速成科」ではない正規の看護婦養成所の第一期養成生のものようです。(この後の看護婦養成は東京本社に委託されました。)